



SBSビジネスレポート

2021年12月期 期末株主通信

2021年1月1日～2021年12月31日

社長メッセージ

連結業績

特集1

特集2

SBSグループのESG

トピックス

会社概要&株式の状況



M&Aとその後のPMIプロセス、 さらにオーガニック成長も加わり 売上高・営業利益ともに 4期連続過去最高を更新しました

代表取締役社長 鎌田 正彦



当期(2021年12月期)の業績について

当期は、前年から続く新型コロナウイルス感染症拡大と、それに伴う国内各地での緊急事態宣言発出が経済活動に大きな影響をもたらしました。一方で、生活必需品やネット通販などEC関連市場は拡大が続いており、当社グループはお客様、取引先並びに従業員の感染防止と安全確保を最優先に取り組みながら、こうした需要に応えるべく積極的な対応を図ってまいりました。

当社グループの成長戦略の柱であるM&Aでは、2020年11月以降、SBS東芝ロジスティクスを皮切りに東洋運輸倉庫、旭新運輸開発、日ノ丸急送、ジャス、SBS古河物流の各社が相次いで当社グループに加わり、個社の強みを活かすことでお客様の物流サプライチェーンを一層強固にサポートする体制が整いました。

既存の物流事業においても、すでにお取引のあるお客様との取引拡大や新規のお客様の需要獲得ができたこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大きく落ち込んだ企業間物流が海外を含め回復したこと、即日配送事業においてEC需要の取り込みや生活物流・ネットスーパー等の需要にも対応したことで、年間を通して堅調に推移しました。また、

当社グループ独自のビジネスモデルである物流施設の自社開発と流動化を行う不動産事業では、南港物流センター(大阪府)の信託受益権譲渡と最先端のLTを駆使した「物流センター横浜金沢」(神奈川県)の竣工稼働が実現しました。

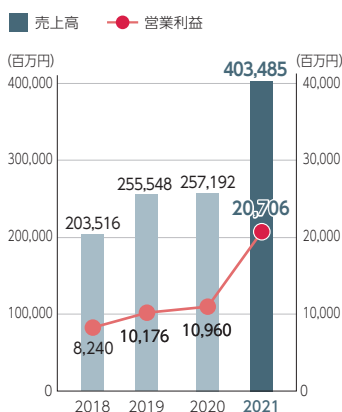
これらの取り組みの結果、当期業績につきましては、売上高は前連結会計年度より1,462億93百万円増(+56.9%)の4,034億85百万円、営業利益は同97億45百万円増(+88.9%)の207億63百万円となり、売上高、営業利益とも4期連続で過去最高を更新しました。また、経常利益は同96億5百万円増(+88.3%)の204億89百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同39億63百万円増(+58.1%)の107億90百万円となりました。

2022年12月期は、売上高4,300億円、営業利益215億円、経常利益206億円、親会社株主に帰属する当期純利益117億円と増収・増益を計画し、これを達成するべくグループ一丸となって取り組んでまいります。

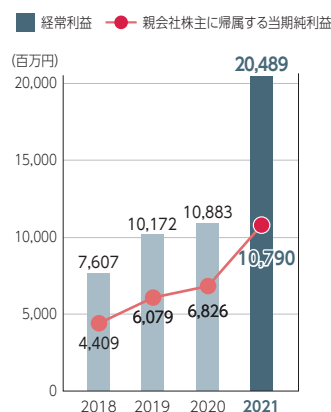
株主の皆様には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の連結業績

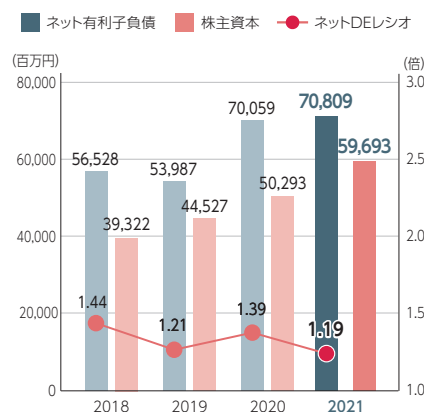
売上高 / 営業利益(右軸)



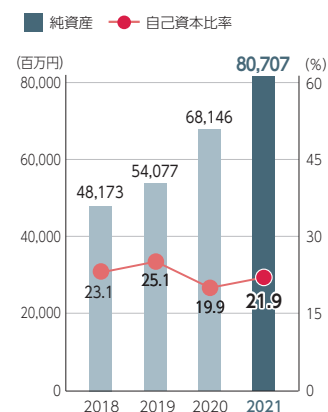
経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益



ネット有利子負債/株主資本 / ネットDEレシオ(右軸)



純資産 / 自己資本比率(右軸)



※ネット有利子負債=長期・短期借入金+社債-現預金
※ネットDEレシオ=ネット有利子負債÷株主資本

SBS東芝ロジスティクスがフル寄与し、 売上高4,000億円を達成。 成功するM&A戦略で、さらなる高みを目指す

株式譲渡の目的は「物流子会社の成長」

メーカーや小売業などの企業が、物流子会社の株式を物流専門の事業者へ譲渡し、企業価値を高めることで高い物流機能を楽しみたいとする動きが加速しています。このような経営環境を背景とし、SBSグループでは、2004年以降、雪印物流（現・SBSフレック）や東急ロジスティック（現・SBSロジコム）など20社以上のM&Aを通じ、個々の企業独自の強みを伸ばすことで、実績を積み上げてまいりました。直近では2018年にリコーロジスティクス（現SBSリコーロジスティクス）、2020年には東芝ロジスティクス（現SBS東芝ロジスティクス）、2021年には東洋運輸倉庫、古河物流（現SBS古河物流）が参画するなど、成長を続けています。



左から 古河物流（現SBS古河物流）森田社長、
当グループ代表鎌田、古河電気工業 小林社長

M&A成功のキーファクター： 「システム統合プロセス」

PMI（M&A成立後の統合プロセス）では、大きく2つのプロセスがあります。ひとつは「システムの統合」で、もうひとつは現場業務を中心とした「事業の統合」によるビジネスシナジーの発揮です。初期段階で最も重要なのはシステムの統合であり、SBSリコーロジスティクスは約2年間の作業期間を経て統合が完了しました。現在は、SBS東芝ロジスティクスなど直近グループ入りした企業の作業が進行中で、これらが完了すると事業面での協働が飛躍的に加速することが期待できます。システム統合ノウハウやそれに必要な資金力は、M&Aの成功にとって不可欠なキーファクターです。SBSグループでは、多くの経験を積み重ねた専門性を有するITチームにより、これを完遂できる体制が整っています。

SBSグループ独自のPMIキーワード： 「融合」

SBSグループにおけるM&A成功のキーワードは「融合」です。各企業は、経営陣と組織形態および人材配置は従来路線を維持したまま、本社機能を集約することで、グループ企業間の情報共有の質とスピードを加速していきます。本年3月には、SBS東芝ロジスティクスなど近年グループ入りした各社を含む計19社の本社機能を西新宿に移転・集約しました。

SBSグループでは、「グループ入りした会社は仲間、同志」との考えが根本にあり、それがM&Aを成功させている組織風土となっています。M&A、中途採用等を通じて集う多様な人材から生まれる価値観のダイナミクスがグループの強みとなっています。

M&Aで得られた新事業領域・顧客獲得・経営資源拡充など

会社名	M&A年月	新事業領域・顧客獲得	既存事業との親和性	経営・事業資源の拡充
SBSリコーロジスティクス	18年 8月		機械化・自動化による効率化	全国配送ネットワークの強化など
SBS東芝ロジスティクス	20年11月	東芝グループとの取引拡大	4PL機能の共有	北米・欧州の海外物流市場を強化
SBS古河物流	21年12月	古河電工グループとの取引拡大		情報通信、自動車等の輸送ノウハウ
東洋運輸倉庫	21年 1月	通関業務、国際物流に強み		東京臨海部での立地ポテンシャル
旭新運輸開発	21年 4月		小ロット共同配送、家具配送など	西日本の物流サプライチェーン強化
日ノ丸急送	21年 4月		3温度帯の食品物流	四国一円に配送ネットワーク
ジャス	21年 7月		東北地区の小口配送、量販店向け配送	東北～関東間の幹線網構築

お客様の成長に寄り添う 「EC物流」サービスを目指して



2022年からEC物流事業へ本格的に参入

SBSグループは、2022年からEC (Electric Commerce: 電子商取引) 物流事業へ本格的に参入します。現在展開中のラストワンマイルネットワークに加え、グループ各社が持つシステム開発や現場ノウハウ、物流施設開発力を融合したEC事業者様対象の3PLを拡大することで、2030年までに売上高1,000億円規模に向けた拡大を目標としています。

首都圏にEC専用の拠点を新設

日本における2019年のBtoCのEC市場規模は19.4兆円でしたが、2026年には29.4兆円になると見込まれており、大都市圏では物流施設の建設が相次いで行われています。

SBSグループも年々増加するEC事業者様向けの3PL需要に対応するため、積極的に物流施設の拡充を図っております。2030年までに首都圏にEC物流専用拠点を15カ所ほど新設する計画を掲げ、投資総額は1,000億超を見込んでいます。

物流ロボットなどのLTやITの導入をさらに推進

2021年は、SBSグループがLT (Logistics Technology) とITを物流現場へ本格導入を開始した年です。10月に稼働した「物流センター横浜金沢」では、アジア最大級の自動倉庫システム「オートストア」や機械学習を活用した検品レスの仕組みなど最先端のシステムを導入し従来型の拠点と比較し、飛躍的な処理能力向上を目指しています。

ラストワンマイルを含めた 一気通貫サービス

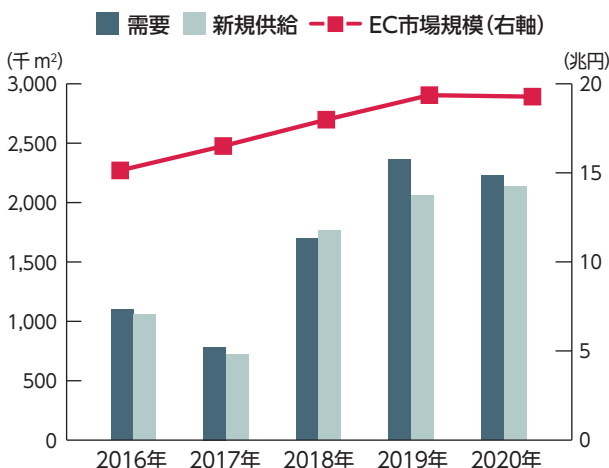
現在お取引のある大手EC事業者様に加え、年商5億～10億円ほどのスタートアップや成長期にあるEC事業者様にも低コストでご利用いただけるよう、フルフィルメントからラストワンマイルまでの一気通貫サービスを実現します。製品数が少ない小規模EC事業者様でも気軽にご利用いただける、お客様の成長に寄り添うサービスを目指しています。

自社開発の専用施設で、規模・業種を選ばない “EC物流専用プラットフォーム”を構築

SBSリコーロジスティクスのシステム開発力やオフィス通販様向けの3PL事業で培った豊富なノウハウ、さらにSBS東芝ロジスティクスの最新物流ロボット導入技術、SBSロジコム現場力などを融合し、“EC物流専用プラットフォーム”を構築します。

2030年にはこのプラットフォームを通じたEC関連売上高を、1,000億円規模とし、物流事業の大きな柱へと成長させてまいります。

物流施設需要・供給とEC市場規模の推移



※EC市場はBtoc市場

※出所: JLL、経済産業省2020年度調査資料より一部抜粋



帳票類の自動投入機

ラストワンマイル物流でEVトラックを国内初導入

2030年までに10,000台のEV化を目指す

2021年10月、SBSグループは、ラストワンマイル輸送を担う全車両をEV(電気自動車)トラック化する方針を発表しました。SBSグループがラストワンマイル輸送車両として稼働する約2,000台を対象に、今後5年間で順次EV化するとともに、協力会社を含めた1万台のトラックについても2030年度を目途にEVへの置き換えを働きかけていきます。

車両排出CO₂の削減強化目標に対応

SBSグループは、重点課題として車両排出CO₂の削減強化を掲げており、2030年までに温暖化ガスの排出量を毎年、前年比3%以上減らすことを目標としています。目標実現に向けて現行の車両をEV等の次世代自動車に置き換えることを目指しており、今回、EVトラックの本格導入を開始することで、その施策の推進が一層加速されることが見込まれます。

EVの導入とエコドライブ(省燃費走行)を推進

今回採用するEVトラックは2021年から走行試験を行っており、メンテナンスや整備体制を整えた後、順次導入を開始します。物流業界での多様なニーズに対して、現在、国内でのEVの選択肢は少ない状況ですが、この取り組みは、日本の脱・炭素社会の実現において重要な一歩になると考えています。

SBSグループは気候変動によるリスクを重要な経営課題と認識し、EVの導入とエコドライブ(省燃費走行)の浸透を推進しながら、脱・炭素社会の実現に向けてグループ全体で取り組んでまいります。

これまで国内メーカーになかった1トンクラスのEVトラック

今回導入するのは、これまで国内メーカーになかった1トンクラスのEVトラックを、フォロフライ社が日本の安全基準に基づき設計変更した車両を中国のメーカーがOEM生産し提供するもの。1トンEVトラックはSBSグループが手掛けるラストワンマイルの配送に最適な車種で、航続距離300kmが可能なバッテリーを搭載し、普通免許での運転が可能な車種として最大積載量のEVとなります。

今回、フォロフライ社からEVの供給を受けることは、脱・炭素の取り組みを進めて地球環境に貢献していくうえで、大きな前進となります。SBSグループは、同社に出資し今後の成長を支援しながら、次世代型車両の導入を進めていく方針です。



トピックス

M&A 東洋運輸倉庫、古河物流が SBSグループ入り

(SBSグループ)

▶▶▶「特集1」をご参照

M&A グループ各社による スモールM&Aが加速

(SBSグループ)

▶▶▶「特集1」をご参照

LT(物流技術)を駆使した 自動化システムを導入

(SBS東芝ロジスティクス・SBSリコーロジスティクス)

▶▶▶「特集2」をご参照



女性が活躍するグループへ躍進

(SBSホールディングス・SBSフレックネット)

8月、SBSホールディングスは「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づき、厚生労働大臣より「えるぼし」の認定を受けました。また、10月に開催された全国トラックドライバー・コンテストでは、SBSフレックネットの女性ドライバーが5位に初入賞するなど、女性の活躍が目立ちました。



環境保全への取り組みを強化

(SBSグループ)

SBS東芝ロジスティクスの関西支店が、廃棄物発生量を減らす活動が評価され、「令和3年度大阪市環境局長表彰」を受賞。SBSリコーロジスティクスは、森林ボランティアである企業の森活動を実施するなど、環境保全への取り組みを進めています。

*EVトラックの本格導入については、「SBSグループのESG」をご参照ください。

会社概要&株式の状況

会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
代表取締役 鎌田 正彦
創立 1987年12月16日
資本金 39億200万円
売上高 4,034億円(連結) ※2021年12月期
所在地 〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー25階
TEL:03-6772-8200(代表)

事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他

連結子会社
2022年1月1日

SBS東芝ロジスティクス(株)
TLロジサービス(株)
東芝物流(上海)有限公司 東芝物流(杭州)有限公司
東芝物流(大連)有限公司 東芝物流(香港)有限公司
TOSHIBA LOGISTICS (THAILAND) Co., Ltd. TOSHIBA LOGISTICS VIETNAM Co., Ltd.
TOSHIBA LOGISTICS AMERICA, Inc. TOSHIBA LOGISTICS EUROPE GmbH

SBSリーコーロジスティクス(株)
SBS三愛ロジスティクス(株)
RICOH LOGISTICS CORPORATION RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS (H.K.) Ltd.
理光国際貨運代理(深圳)有限公司 (株)ジャス

SBSロジコム(株)
SBSフレイトサービス(株) SBSグローバルネットワーク(株)
SBSロジコム関東(株) 旭新運輸開発(株)

SBSフレック(株)
SBSフレックネット(株) (株)日ノ丸急送

SBS即配サポート(株)
SBSゼンツウ(株)
SBS古河物流(株)
SBSスタッフ(株)
SBSファイナンス(株)
東洋運輸倉庫(株)
マーケティングパートナー(株)
SBSアセットマネジメント(株)
エルマックス(株)

役員 (2022年3月25日付)

代表取締役	鎌田 正彦	社外取締役	関本 哲也
取締役	入山 賢一	社外取締役	岩崎 二郎
取締役	泰地 正人	社外取締役	星 秀一
取締役	田中 康仁	取締役(監査等委員)	遠藤 隆
取締役	若松 勝久	社外取締役(監査等委員)	松本 正人
取締役	加藤 元	社外取締役(監査等委員)	辻 さちえ
取締役	佐藤 広明		

株式の状況

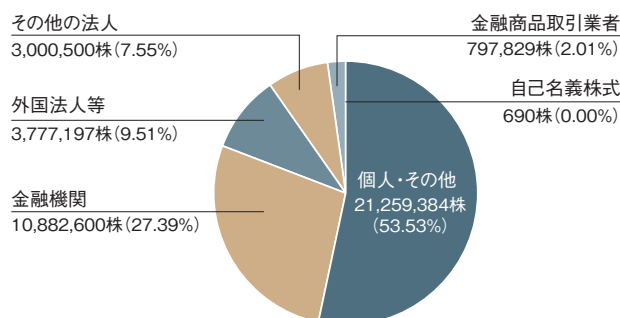
発行可能株式総数 154,705,200株
発行済株式の総数 39,718,200株
単元株制度の有無 有(100株)
株主数 5,103名

大株主の状況

株主名	持株数	持株比率(%)
鎌田 正彦	14,388,400	36.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,500,800	13.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,333,400	5.87
SBSホールディングス従業員持株会	1,266,800	3.18
三井住友信託銀行株式会社(信託口 甲18号)	1,200,000	3.02
三井住友信託銀行株式会社(信託口 甲13号)	1,000,000	2.51
東武不動産株式会社	986,000	2.48
和佐見 勝	610,600	1.53
大内 純一	600,000	1.51
SMBC日興証券株式会社	427,600	1.07

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数第3位を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況 (発行済株式総数:39,718,200株)



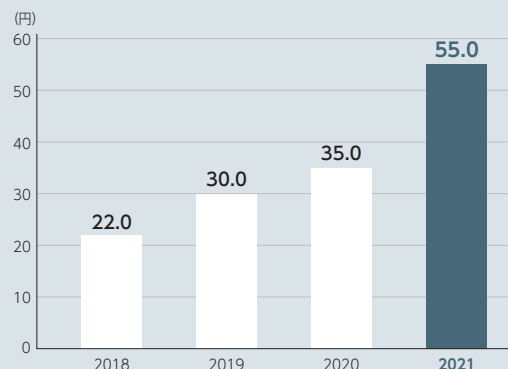
株主メモ

- 事業年度
1月1日~12月31日
 - 期末配当金受領株主確定日
12月31日
 - 定時株主総会
毎年3月開催
 - 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
 - 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1
TEL. 0120-232-711(通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - 上場証券取引所
東京証券取引所 市場第一部
 - 公告方法
公告掲載URL <https://www.sbs-group.co.jp/>
- ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

配当金の推移



UD
FONT

 **SBSホールディングス株式会社**

〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー25階
TEL:03-6772-8200(代表)